

自主防災リーダー研修会

---

# 自主防災組織の活動について

---

令和4年5月28日(土)

日本防災士会 岡山県支部

原田 純志

---

彼を知り、

己を知れば、

百戦危うからず、

孫子

彼を知り	己を知れば	百戦危うからず（対応と備え）
<p>住んでいる地区でどのような災害が想定されるのか。</p> <p>想定された災害が起きた際にどのような状況になるのか。</p> <p>過去にどのような災害があったか。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>地区の人口、人口構成。</p> <p>地区の地形の特徴は。</p> <p>支援が必要な人がいないか。</p> <p>避難場所、避難所はどこか。</p> <p>地区の特徴(強みと弱み)</p> <p>災害時には限らず平時でも危険な箇所がないか。</p> <p style="text-align: right;">など</p>	<p>災害時の身の守り方。</p> <p>避難所運営の方法。</p> <p>備蓄品の種類と量。</p> <p>避難先、避難方法、避難経路。</p> <p>支援者避難時の支援方法。</p> <p>災害時の安否確認の方法。</p> <p>避難訓練の計画・実施。</p> <p style="text-align: right;">など</p>

# ワークショップを開催しよう！

## ｜ワークショップとは

ワークショップとは、**参加者が主体性をもって参加**するイベント。  
ワークショップの魅力は、ただ知識を得るだけではなく、**参加者同士の意見に耳を傾けること**で、**幅広い層の考えに触れられる。**

## ｜テーマ例

- 私の住むまちの良いところ（強み）悪いところ（弱み）。
- 私の住むまちの災害リスク（ハザードマップ参照）。
- 南海トラフ地震が発生した際に私の住むまちへの影響。
- マイタイムライン作成

など

## ｜進行例

- グループ分け（町内別、世代別等）を行い、グループ内でテーマに沿って話し合ってもらおう。
- 話し合った内容を取りまとめてグループごとに発表する。
- 話し合いの発言が少ないと予想されるまたは少ない場合は付箋等に書込みをしてもらう。

## 避難訓練を開催しよう！

- 住んでいる街に必要な取り組みや決めたルールの通りに避難訓練を行う。
- 記録を残し悪かった点(課題)を拾い、見直しをする。

### | 注意点

- やりっぱなしにしない。(マンネリのもと)
- 結果に対して100点を狙わない。

## 地区防災計画を取り入れよう！

1. 知ったこと、わかったこと、確認したことや取り組んだことを記録する。
2. 記録した内容を整理してルール作りをする。作ったルールは文書化し住民に周知する。

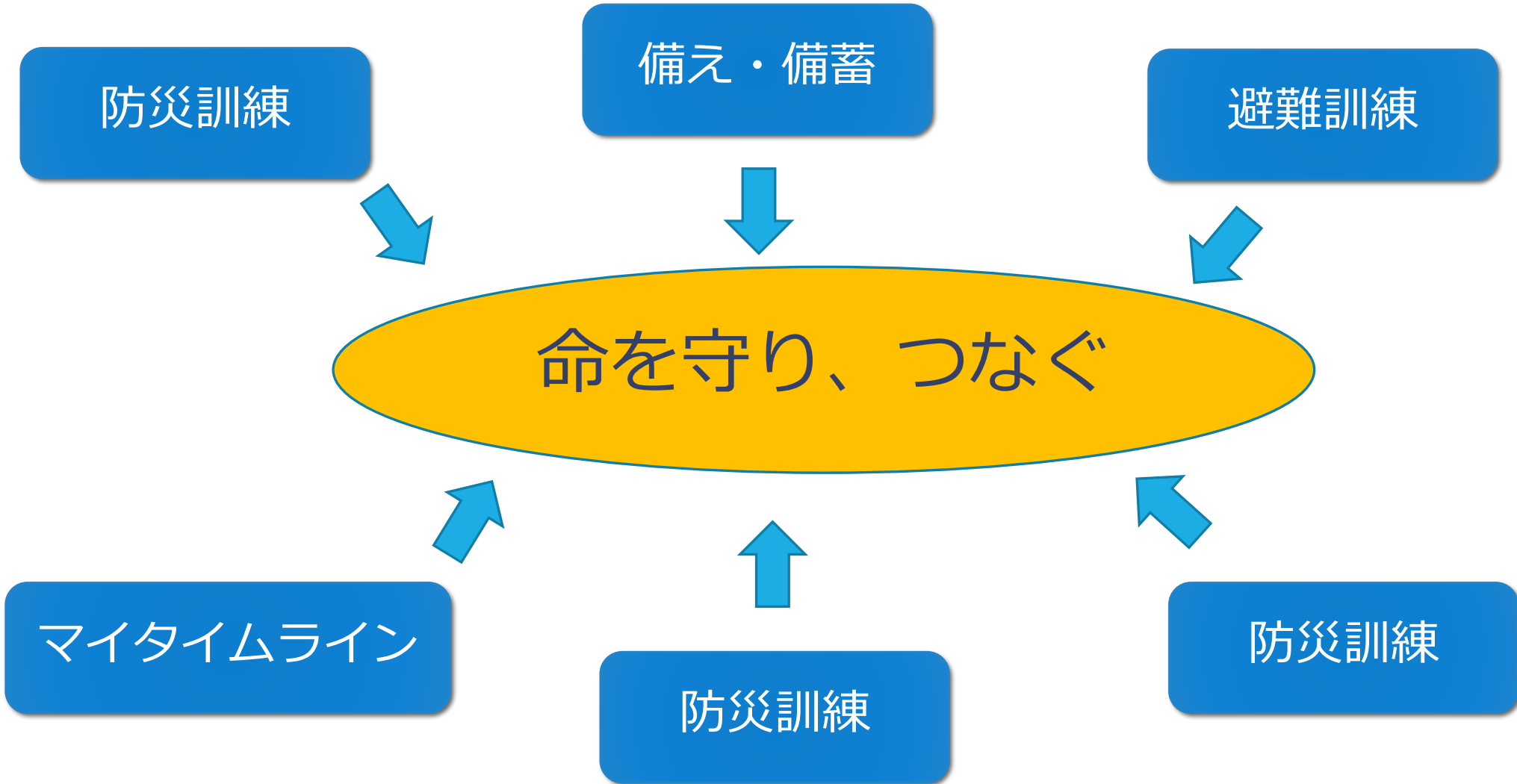
文書化のメリット：周知の負担が減り、住民の理解の統一化が図れる。  
未来の（長期的な）住民への継承。



地区防災計画の策定へつながる。

○地区防災計画をツールとして防災力強化へ

〇ブレない目的



---

## | まとめ

- 社会の変化をふまえ、それぞれの地区の特徴に合わせた **「新しい災害対応の仕組みづくり」** が必要。
- 災害時に突然の共助は困難であり日ごろから顔の見える付き合い **「まちづくり(事前復興)」** の取り組みも重要。
- 災害に強い(があっても強い)安心・安全なまちづくり。



---

## 最後に

- 責任を一人で背負わず、協力者・仲間を増やす。
- 行政や防災士など相談先を見つけよう。
- 資源や人材不足のため取り組めないではなく、現状でできる事や最善な取り組みを探す。
- 防災の取組みにおいて「答え」や「特効薬」はありません。あきらめずコツコツと。